

総合計画の策定では、市民ワークショップ、中学生ワークショップ、地域懇談会などを開催し、市民の皆さんや須賀川市に通勤・通学している皆さんと一緒に須賀川市の将来を考えました。



コラム わたしの未来ストーリー

わたしは、市内の学校に通う中学3年生。生まれは須賀川じゃないけど、弟が生まれるときに引っ越すことになって、須賀川に新しい家建てたの。

小学校を卒業するタイミングだったから、わたしは大反対。たくさん泣いたけど、二人とも「きっといいところだよ」って。

いまでは学校にも新しい友達できて毎日とっても楽しい!

ここに住み始めてから、両親がなぜ須賀川を選んだのかなんとなくわかってきた。

生後6か月の弟はこども園に通うようになって、お母さんはお仕事に復帰したの。わたしの時は、なかなか保育園に入らず仕事復帰がすごく遅れたって言っていたのに。

こども園はとってもきれいだし、先生たちはすごく楽しそうにお仕事をしている。弟もなんだか嬉しそう。

それに弟のお迎えが家の前まで来てくれるからとっても楽みたい。AIを使ったシステムで、地域に住んでいる園児を効率的に送迎するシステムがあるんだって。

わたしがなんとなく覚えている記憶は、慌てながら化粧や着替えをしているお母さんの顔や自転車を必死にこいでいる背中。でも今はお母さん、余裕をもって朝の準備ができてみたいで、本当によかった!

お父さんは新しいお仕事に変わったけど、前のお仕事の時は、帰ってくるのも遅いし、土日もしょっちゅうお仕事。授業参観なんて来たこともない。けれど、いまのお仕事はいつも同じ時間には帰ってこられるし、なんなら部活帰りのわたしより早いくらい。

これも会社の仕事を効率的に配分するシステムやリモート環境の整備がどんどん進んだからなんだって。みんなで子育てやお仕事をしやすい環境づくりに取り組んでいるおかげらしい。

でも、お父さんが言っていた。いくらAIやITが進んでも、弟の面倒を見るのは難しいって。

わたしは、弟をお風呂に入れたり、おむつを替えたりしているのね。

いまでも弟の面倒を見たり、子守りしたりするのが大好き。どれだけ技術が発達しても、やっぱり人と人が接する仕事はAIにはできないと思う。

だから、大好きなこどもと触れ合える保育士になりたいな。このまちでお仕事するのはきっと楽しいと思うから!

このストーリーは、市民ワークショップ、中学生ワークショップで出たアイデアや意見を参考に市役所の若手職員による庁内ワークショップで作成した「10年後を想像した物語」です。

須賀川市第9次総合計画 概要版

須賀川市まちづくりビジョン 2023

発行者：福島県須賀川市

〒962-8601 福島県須賀川市八幡町 135 番地
電話 0248-75-1111 (代表)

URL <https://www.city.sukagawa.fukushima.jp/>

発行日：2023(R5)年3月



須賀川市
公式WEBサイト



表紙の絵は、雲の神様と称される背景画家の島倉二千六さんが、須賀川特撮アーカイブセンターミニチュアセット背景画として、須賀川の空をイメージして描いたものです。

須賀川市ではこれまで、本市出身の円谷英二監督が礎を築いた特撮を文化として継承するとともに、地域の宝を通してシビックプライドの醸成に取り組んできました。

表紙には、総合計画を推進し、10年後も皆さんと共に素晴らしい須賀川の空を見続けられるようにとの思いを込めています。

しまくら ふちむ
【島倉二千六氏】

円谷英二監督の特撮映画をはじめ、60年以上にわたり多くの背景画を描き続け「雲の神様」とも称されています。円谷英二ミュージアムや須賀川特撮アーカイブセンター内の背景画も手掛けられました。

須賀川市第9次総合計画 概要版

須賀川市まちづくりビジョン 2023

2023

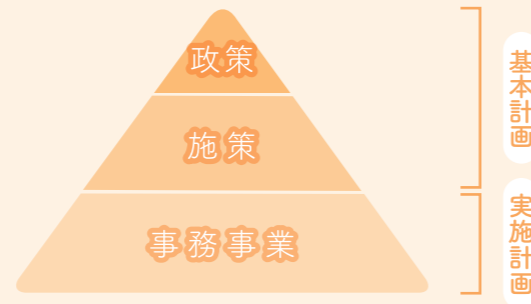


2027

須賀川市第9次総合計画「須賀川市まちづくりビジョン 2023」は、須賀川市が「選ばれ」、すべての人にとって「住み続けたいまち」を目指して、今後のまちづくりを自分事としてとらえ、共に力を合わせて取り組んでいくための指針となる計画です。

構成

総合計画は、基本計画と実施計画で構成します。



期間

10年後の須賀川市を見据えながら、時代の流れ、社会経済情勢の変化、財政状況などに的確に対応できるよう、計画期間は5年間とします。

5年間 2023(R5)年度～2027(R9)年度

重点戦略

国の「デジタル田園都市国家構想基本方針」を踏まえ、デジタルの力を有効に活用して地方創生を推進します。

進行管理

まちづくりの主体である市民や地域、事業者、行政など、須賀川市に関わるすべての人が、まちづくりを自分事としてとらえ、協働して取り組んでいくため、行政評価による進行管理を行い、成果状況をわかりやすく「見える化」し、まちづくりの主体である皆さんと進捗度合いを共有します。

SDGs[※]の理念

SDGsは、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を目指す国際社会の共通目標です。

SDGsの理念は、須賀川市が実施する持続可能なまちづくりと密接に関係するものです。

総合計画では、各政策・施策とSDGsの17の目標を関連付けることにより、一体的にまちづくりを進めていきます。 ※Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標



須賀川市の現状と計画の方向性

人口減少や少子高齢化の進行は、地域コミュニティの希薄化や労働力人口の減少、地域経済の規模縮小など、様々な課題を生じさせています。

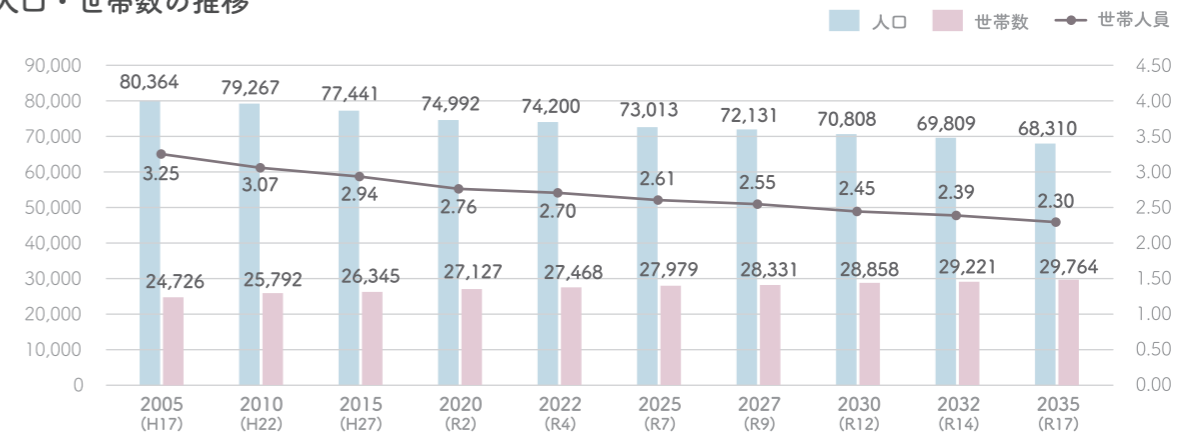
また、2011(H23)年の東日本大震災や近年多発する地震、2019(R1)年の令和元年東日本台風や集中豪雨などの大規模自然災害、2020(R2)年から続く新型コロナウイルス感染症の影響などにより、大きく社会環境が変化しています。

人口の推移と目標人口

須賀川市の人口は、2005(H17)年をピークに減少傾向が続いています。また、若い世代の人口が減少している一方で、総人口に占める高齢者の割合は増加しており、人口減少とともに少子高齢化が進んでいます。

目標人口
2027(R9)年 72,000人
2032(R14)年 70,000人

人口・世帯数の推移



過疎指定

長沼地域と岩瀬地域は、2020(R2)年国勢調査の結果により、2022(R4)年4月1日に過疎地域として指定されました。「須賀川市過疎地域持続的発展計画」などにより、魅力、活力ある地域づくりに取り組んでいきます。

リスク管理

大規模な災害が発生した際に、被害を最小限に食い止めるための「減災」対策に取り組むとともに、災害に強いまちづくりを推進します。

また、頻発化、激甚化する地震や台風などの自然災害、新型コロナウイルス感染症など、複数のリスクが同時に起きる複合災害への備えも必要です。

市民一人ひとりの防災意識の醸成や自主防災組織の充実などに一層取り組みながら、自助・共助・公助の精神に基づき、市民、地域、事業者、行政が一体となって、安全で安心な暮らしを守る取り組みを進めていきます。



「市民自治の精神」を受け継ぎ みんなで取り組む 協働のまちづくり

共につくる 住み続けたいまち すかがわ

人口減少が進行している現在においては、住んでいる人が住み続けていくこと、須賀川市がこれからも選ばれるまちであることが大切です。

そのため、誰もが安全で安心に、そして心豊かに暮らすことができる私たちの未来を、まちづくりの主体である市民をはじめ、地域、事業者、行政、そして、須賀川市に関わるすべての人が支えあいながら協働してつくっていきます。

須賀川への愛着と誇り「シビックプライド」にあふれ、すべての人にとって「住み続けたいまち」であり続けることを目指します。



© 円谷プロ

シティプロモーションのキャッチフレーズ 「好きですわたしのすかがわ」

まちを思う心だけでなく、まちに関わる一人ひとりが、自分自身を好きになって、自分に自信と誇りをもって欲しいという願いが込められています。

シビックプライド

須賀川市には、歴史ある「松明あかし」や「きうり天王祭」をはじめ、「釈迦堂川花火大会」や「長沼まつり」、「いわせ悠久まつり」などの行事、江戸時代の俳人相楽等躬から連なる俳句文化、さらには、地域の祭りや田植え歌、自奉楽などの伝統芸能など、これまで、脈々と受け継がれてきた独自の伝統や文化が数多くあります。

市民や須賀川市に関係する人が、それぞれ須賀川の魅力を感じ、その気持ちを共有することにより、まちへの誇りや愛着を育み、このまちを構成しているひとりであるという気持ち、いわゆる「シビックプライド」を持ち、様々な形で関わり合い、一体となってまちづくりを推進していきます。

二人の円谷 特撮の神様と称される円谷英二監督と1964(S39)年東京オリンピック銅メダリストの円谷幸吉選手。二人の活躍は、今もお多くの人に夢や希望を与えています。
須賀川市出身の偉人であり、名誉市民でもある英二監督と幸吉選手の顕彰などを通して、シビックプライドの醸成に取り組んでいます。



市民協働、公民連携の推進

市民、地域、事業者、行政などが情報を共有し、それぞれの役割を尊重し、連携を図りながら、地域の課題解決に向けて一体的に取り組めます。

また、民間活力を積極的に活用し、市民サービスの向上を目指します。

シティプロモーションの推進

市民や須賀川市に関わる人が魅力を発信し、より多くの人に伝えることにより、関係人口の拡大、定住人口の増加や市の認知度向上につなげていきます。

市民、地域、事業者、行政などが一体となって、「住み続けたいまち」の実現に向けたシティプロモーションを推進します。

DX*の推進

急速に進むデジタル化の流れを的確にとらえ、すべての市民が様々な形で情報化・デジタル化のメリットを最大限に受けられるよう、新しいICT技術などを活用しながら、DXを推進します。

* デジタル・トランスフォーメーション、デジタル変革

EBPM*の推進

客観的、科学的なデータを活用した評価により、適切な政策の立案や改善に取り組みながら、効果的・効率的な行政経営に努めます。

* Evidence-based Policy Making 証拠に基づく政策立案

将来都市像の実現に向けて、市民生活に関連の深い「ひと」、「くらし」、「しごと」、「まち」の4つの分野が連携し、相乗効果を高めながら、各政策を推進していきます。

分野1

ひと

政策1

子育て環境の充実

幼児教育・保育の充実、子育て支援の充実、妊産婦と子どもの健康管理の充実に努め、安心して子どもを産み育てることができる環境を目指します。

政策2

学校教育の充実

確かな学力の育成、豊かな心と体の育成、新たな学びの環境整備、特別支援教育の充実に努め、変化の大きい社会に的確に対応できる「生きぬく力」の育成に努めます。

政策3

生涯学習・スポーツの推進

生涯学習の推進、スポーツ活動の推進に努め、生涯にわたり、様々な機会・場所で学習やスポーツを行い、豊かな生活を送れる社会づくりに努めます。

政策4

健康で安心して生活できる環境の充実

病気の予防と早期発見・早期治療の推進、フレイル予防・介護予防の推進、地域医療体制の充実、保険制度の適正な運営に努め、心身の健康保持・増進が図られ、健やかに暮らせる環境を目指します。

政策5

ともに支えあう福祉社会の推進

高齢者福祉の推進、障がい者福祉の推進、自立して暮らせる福祉の推進、多様性を認め合う社会の実現に努め、地域において、それぞれの立場で、支えあいながら暮らせるまちを目指します。

分野4

まち

政策1

地域の宝の活用と交流の推進

特撮文化の推進、文化芸術の推進、地域資源を活用したPRの推進、観光振興と交流促進に努め、文化芸術や観光などの地域資源を活用し、交流を図ります。

分野2

くらし

政策1

防災・減災対策の推進

地域防災体制の充実、災害時の避難・支援体制の充実、治水・浸水・土砂災害対策の推進に努め、防災・減災の取り組みにより市民の生命や財産への被害軽減を図ります。

政策2

安全で安心な生活の推進

防犯対策の推進、交通安全対策の推進、公共交通網の充実に努め、事件や事故に巻き込まれず、安全で安心して日常を送れる社会づくりに努めます。

政策3

生活基盤の充実と循環型社会の形成

住環境の整備・保全、道路環境の整備、水道水の安定供給、環境の保全と循環型社会の形成に努め、快適に生活できる環境づくりを推進します。

政策1

雇用の創出と雇用環境の充実

雇用の維持・創出、就労の促進、職場環境づくりの支援に努め、多様な雇用の機会を確保し、就業の促進を図ります。

政策2

農林業の振興

担い手の育成・確保、農林業生産環境の整備・保全、持続的な農業経営の確立、特産農産物の振興に努め、農業所得の安定・向上を図ります。

政策3

商工業の振興

商業の振興、工業の振興に努め、市内商工業事業所の経営力の向上に取り組み、地域経済を活性化します。

分野3

しごと

政策2

市民協働によるまちづくりの推進

地域コミュニティ活動の推進、市民活動の推進、自治会活動の推進に努め、市民の主体的な活動により、人の結びつきを深め、活気のあるまちづくり活動の支援に取り組みます。

政策3

開かれた行政の推進

広報広聴の充実、行政サービスの充実、行政マネジメントの向上に努め、分かりやすい情報と質の高い行政サービスを提供し、開かれた行政経営を行います。